

BBL NEWS

Bilingual Business Leader Program



立教大学 経営学部 国際経営学科
Department of Global Business, College of Business, Rikkyo University

第16巻第1号(通算42号) 2022年11月1日発行 <http://cob.rikkyo.ac.jp/>

Advanced Business Project 始動 協力企業はLVMHフレグランスブランドに決定

2022年度秋学期開講のBBL科目Advanced Business Project(担当:トンプソン准教授)のプロジェクト・クライアントとして授業に協力してくださる企業が、LVMH フレグランスブランド株式会社に決定しました。LVMHは70近くの高級ブランドを持つ、言わずと知れた世界最大のファッション業界大手企業体ですが、その中で香水や化粧品品の輸入・販売を手掛けるのが、LVMH フレグランスブランド。日本市場でのビジネス戦略に関する重要な課題に取り組んでいきます。

2022年9月30日にはクライアントセッションが開催され、LVMH フレグランスブランドの金山 桃氏(代表取締役社長)他スタッフの方々に授業にお招きし、プロジェクトのテーマについて受講生に英語で詳しくご説明いただきました。



●クライアントセッションの様子

Advanced Business Projectの特徴は、なんといっても受講生の多様性にあります。今学期履修した23名の学生のうち、15名は世界各国からの学生(留学生とベトナム貿易大学の学生)で、8名が日本人学生(経営学部とGLAPの学生)です。各学生の異なる文化背景に加え、経営学やリベラルアーツなど、さまざまな学問を専攻する学生が集まり、協働して調査・議論し、解決策の提案までを行います。最終的なLVMH フレグランスブランドに対する事業提案の様子などについては、次号のBBL NEWSでお伝えします。

卒業生の活躍ぶり

— 新入社員研修のプレゼンコンペで優勝

国際経営学科
2022年3月卒業
岩間 湧太さん
(神奈川県立海老名高等学校卒)

1. 卒業後、どの分野で働いているのか、差支えない範囲で教えてください。

創業130年を超える酒類・食品卸売業の企業で働いています。卸売業は、商品を仕入

れる＝物流と、商品を運ぶ＝物流の2軸が根幹の事業です。食品メーカーと小売業の間に立ち、全国に効率的に食品を届ける社会インフラとしての重要な役割を担っています。様々な商品に触れられるだけではなく、売り方含め幅広い提案ができるので、飽きることがありません。

2. 入社してまだ間もないですが、早速社内でも実施されたプレゼン大会で優勝されたそうですね。もう少し詳しく教えてください。

入社後2ヶ月間の新入社員研修の中で、「売れる商品をプレゼンする」というコンペティションがありました。数名でチームを組み、MR＝Market Researchという店舗調査で商品の売れ筋を調べ、さらに社会トレンドや市場データを参考にして、私たちは「缶ワイン」という商品群に着目しました。そして、販売コンセプトや売り場での展開方法を決め、店舗バイヤーにプレゼン。提案の具体性とプレゼン力が評価され、見事優勝できました。BBLで身に付けた内容が早速役立ったことを実感しました。

3. BBLで学んだスキルが役に立つことはありましたか? また、在学4年間で印象に残っているBBLの授業があったら教えてください。

お世辞は抜きとして、BBLで学んだスキルは社会でも通用すると実感し

ました。1つはプレゼンにおいて必要なスキル。例えば、スライドデザインやデータの見せ方、聞き手に伝わる話し方やボディランゲージを駆使することです。もう1つはリサーチ力。具体的には、必要な市場データを集め、データ間の相

関性を見つけてロジックを組み立てることです。どちらも、BBLでの実践経験があったからこそ自信を持って発揮できました。

4. 現在BBL科目を履修中の後輩、またこれから経営学部入学を目指す高校生へのメッセージをお願いします。

将来、皆さんがどの言語を使って仕事をする事になっても、根底にあるプレゼンやリサーチのスキルは言語間で共通だと考えています。そのため、BBLという実践的なプログラムの中で、それらのスキルをしっかりと吸収しておくことは必ず役に立ちます。私は立教経営で、様々なバックグラウンドを持つ人と出会えたことで、充実した4年間を過ごすことができました。高校生の皆さんには「立教経営入学」という夢の先にはもっと広い世界が待っている、ということを伝えたいです。



●プレゼン優勝チーム(岩間さんは左端)

オープンキャンパスにてBBLプログラムの模擬授業を実施

立教大学では8月初旬オープンキャンパスを開催し、BBLプログラムでもオンラインで模擬授業を行いました。授業はすべて英語で行われ、全国から約30人の高校生が参加して、国際経営学科のコアプログラムである、BBL／バイリンガル・ビジネスリーダー・プログラムでの学びを体験していただきました。

模擬授業の準備段階から、学生スタッフ6名が教員をサポートし、授業の最後には、高校生からのさまざまな質問にも分かりやすく答えてくれました。スタッフとして協力してくれた国際経営学科1年次生の芝田 彩さんに、今回の経験をレポートしていただきました。

国際経営学科 1 年次生 芝田 彩さん (梅光学院高等学校卒)

私は BBL の教授からやってみないかと声をかけていただいたことがきっかけで、オープンキャンパスに学生スタッフとして参加することを決めました。

このような経験は初めてなので、オンラインで行うオープンキャンパスの場合、どのようにしたら参加して下さった方々が楽しく模擬授業を受け、やりがいを感じられるのか、最初は分かりませんでした。でもその時、BBL の授業で活躍していた SA (スチューデント・アシスタント) の先輩を思い出して、細かい行動や動作を意識して、積極的に声掛けをするようにしました。すると、参加していた方が少しずつ話してくれるようになり、最後には「とても楽しかったです」と言ってくださいました。この言葉を聞いた時、私はスタッフをやって良かったなと心から感じました。



●授業終了後の BBL 教員と学生スタッフの様子 (芝田さんは上段の右端)

他の学生スタッフたちには気さくな方も多く、沢山コミュニケーションを取ることで団結力が増し、最高の達成感を味わうことができました。次もこのような機会があれば進んで参加していきたいです。

経営学部生が ACE プログラムに参加

ACE プログラムは、2021 年 11 月に文部科学省の「大学の世界展開力強化事業」に採択された事業で、立教大学は、アジア最高峰の大学である、ソウル大学校、北京大学およびシンガポール国立大学と連携し、リベラルアーツ教育をベースに、アジアと国際社会の諸問題の解決に向けて思考し、行動できる「アジア発未来共創型グローバルリーダー」の育成に取り組んでいます。

このプログラムには経営学部、異文化コミュニケーション学部、GLAP の学生が応募可能で、選考を経て参加が決定した学生は、1 年間 (2 セメスター) のパートナー大学への留学を中心に、冬季・夏季の集中講座 (インテンシブ・プログラム)、帰国後のパートナー大学オンライン授業の受講、語学力 (英語・中国語、朝鮮語) 向上などに取り組めます。

国際経営学科 4 年次生の佐藤 優佳さんは、2022 年 2 月に ACE ウィンター・インテンシブ・プログラムに参加し、現在は ACE プログラムの 1 期生として、北京大学元培学院のオンライン授業を受講しています。そして、来年の春学期には韓国へ渡航して、ソウル大学校の自由専攻学部で学んだのち、秋学期には、シンガポール国立大学の NUS College に留学する予定です。

国際経営学科 4 年次生 佐藤 優佳さん (福井県立福井商業高等学校卒)

このプログラムへの参加を決めた理由は、アジアでトップの 3 大学で経営学以外のコースも受講できる環境が整っていたからです。私は将来、英語力を活かしてグローバルに働きたいと考えています。その軸をもとに就職活動を進める中で、アジアに進出している日本のグローバル企業が多いことを知りました。留学期間が 3 セメスターに渡っていたり、経営学部生でありながら、他の学部の授業も履修できたりする機会は他にはなく、魅力を感じ参加を決意しました。

現在北京大学では、Contemporary Chinese Society と Doing Business in China という 2 つのコースをオンラインで履修しています。

バックグラウンドの異なる学生と関わりたいという気持ちが強かったため、グループワークのある授業を取りました。毎週の講義の前にテキストを読み、授業内でディスカッションがあるなど、BBL 科目に通じる点が多いと感じています。

プログラム修了後は、アジアの 3 か国で学んだという語学力や異文化理解力などの強みを活かし、日系のグローバル企業で駐在なども経験し、成長し続けながら働きたいと考えています。



国際経営学科 4 年次生の三瓶 峻さんは、2022 年 8 月 1 日から 5 日間にわたって開催された ACE サマー・インテンシブ・プログラムに参加しました。

国際経営学科 4 年次生 三瓶 峻さん (木更津総合高等学校卒)

私はアジアのトップ大学で学ぶ学生たちと交流できることを魅力に思い、プログラムに参加しました。欧米の学生との交流は、スウェーデンでの学部間交換留学を通して多く経験しましたが、アジアの学生と意見を交わす機会は、あまり多くありませんでした。実際に ACE プログラムに参加してみて、文化的背景の違いにおけるリーダーシップ発揮の違いに気がつきました。例えば、日本、韓国などの学生はチームの環境整備力・マネジメント力に長けており、シンガポールの学生は率先垂範力に長けている印象を受けました。それら個人の強みを見極めること、それを理解し自分はどのような

にチームに貢献するかを判断することの 2 点が、特にプログラムの中で難しくもあり、学びもある部分でした。これら学部間交換留学や ACE プログラムの経験は、私の中で将来海外の大学院へ進学したいと思うきっかけにもなり、その学びの地盤を育てた EAP・ESP でのディスカッションやグループプレゼンの経験には大いに感謝しています。



●三瓶さんは右端

Overseas EAP 短期留学プログラムが再開

経営学部1年次生を対象に開講しているOverseas EAP 短期留学プログラムは、新型コロナウイルスの影響を受け2020年度、2021年度と中止が続いていましたが、ようやく再開できることとなりました。選択科目として開講された2022年度は、経営学学科生12名、国際経営学学科生46名の合計58名が履修し、秋学期に実施される事前研修を経て、2023年2月から3週間の予定で、オーストラリアのクイーンズランド工科大学（QUT）とウーロンゴン大学（UOW）の2校で学びます。

事前研修では、チームビルディング・アクティビティや異文化コミュニケーションの専門家による特別講義、企業訪問時に役立つノートテイキングの練習、グループ・プレゼンテーションなど、留学中に役立つスキルの習得をめざすプログラム構成になっており、そのほかにも、Overseas EAP 経験者による「先輩セッション」や危機管理セミナーなども開催し、留学に必要な手続きやさまざまな準備も同時に行っています。

オーストラリアにおける留学の様子については、次号のBBL NEWSでお伝えします。



●クイーンズランド工科大学のキャンパス

学部間交換留学 — 留学レポート

ノルウェーのBI 経営大学に留学

国際経営学科4年次生 本澤 海翔さん（帝京高等学校卒）

私はノルウェーのオスロに、半年間留学していました。ノルウェーは自然豊かで、授業終わりには友達とスキーをしたり、春頃から日照時間が長くなるので、ハイキングに行ったりと、まさに自然と共存しながら生活し、学べる環境に居ました。また、日々の授業はとてもインタラクティブに進められ、ビジネスコミュニケーションの授業では、毎回の授業でクラスメイトと交渉を行ったり、プレゼンテーションを行っていました。周りのクラスメイトは日本人とは異なり、自らの意見をはっきりと伝えたり、話す英語が速かったりと、最初はその環境に適応していくのが大変でした。しかし、ゆっくりな英語でも自分の意見をしっかりと述べ、存在感を示すことで、交渉やディスカッションにおいても、成果を出すことができました。また、経営学部のカリキュラムであるBBLの授業を通して学んだ、英語でのプレゼンテーションスキルやディスカッションスキルを大いに活かすことができ、まさに日頃の学習を留学に活かすことができました。今回の留学で学んだことを今後のキャリアにも活かし、世界で活躍していきたいです。



●ノルウェー建国記念日に寮の友達と（本澤さんは左端）

ドイツのEBS ビジネススクールに留学

国際経営学科3年次生 櫻川 怜さん（清泉女学院高等学校卒）

私は10ヶ月間、ドイツのオーストリッヒ・ヴィンケルというフランクフルトから電車で1時間ほどの、白ワインで有名な小さな村に留学していました。日本人が一人もいない新たな環境で、ゼロからのコミュニティー構築、日本とは価値観・考え方が大いに異なるヨーロッパでの生活を通して、多くの学びを得ました。

なかでも、EAP2の授業で培われた「自ら行動する」力は、留学中に役立ちました。”今自分は何をしなければいけないのか、できることを探し、行動に移す”ことは、海外で生活する上で特に重要で、受け身では何も始まりません。授業でも、グループワークでも、ボランティアでも、私生活でも、「自ら動き出す」力は、自分の留学をより充実させるために肝要なスキルでした。

また、ヨーロッパは多様な人種社会であるため、多国籍な友人たちとの日々の会話を通じ、自他の違いや良さを認め合い、尊重するという日本では学ぶ機会が少ないダイバーシティを実感することができたのも、留学に行けて得た学びの一つです。

留学で体得したことは、グローバルな環境下で働きたい私にとって大いに役立つと思うので、この経験を活かしていきたいと思います。



●ドイツの観光地マインツにて友人と（櫻川さんは上段の左から3番目）

アメリカのハワイ大学ヒロ校に留学

国際経営学科4年次生 栗原 啓輔さん（立教新座高等学校卒）

私は約8ヶ月間、アメリカのハワイ大学ヒロ校という大学に留学していました。皆さんにとってハワイはリゾート地としてのイメージが強いと思いますが、そんなイメージとは打って変わり、大自然に囲まれて生活をしていました。

ハワイ大学ヒロ校は、アメリカ国内で最も多様な人種や民族の学生を有する大学として知られ、さまざまな価値観を持つ数多くの友達と交流することができました。

学業面では州立大学という事もあり、専門的な内容を突き詰めるというよりは、立教大学では触れることのできない教科を含めた幅広い分野を勉強してきました。特に印象に残っている「持続可能な観光のためのマネジメント」という授業では、ハワイの経済を支える観光業の課題や改善点について、クラス内レポートやディスカッションをし、経済的な施策と環境保護を両立することの重要性和難しさを実感しました。

また、私は留学後に個人的なボランティア活動を行ってきました。街灯やWi-Fiがない環境で2週間、タロイモの畑での作業、家畜の世話に努めました。東京で生まれ育った自分にとって、未知の体験ではありましたが、都会のように周りに娯楽がない状況での生活を通じて「自分自身で楽しみを作り出していく」マインドを手に入れることができました。

この先の人生で2度と忘れることのない、濃密な8ヶ月間を過ごすことができました。



●タロイモ畑で友人と（右側）

ダブルディグリープログラム第1期生がカナダへ出発

経営学部では、語学力と専門性を高め、世界に通用する力の育成を目指し、ダブルディグリープログラムを実施しています。ダブルディグリープログラムとは、立教大学と海外の協定校の両方で学び、修了時に二つの学位が取得できるプログラムです。

原則として、本学部5学期目(3年次春学期)までに本学で所定の単位を取得したのち、3年次秋学期より協定校にて専門科目を履修し、協定校で取得した単位を本学の卒業要件として認定します(単位取得状況により単位数・派遣時期などは個人によって変わる可能性があります)。このたび、ダブルディグリープログラム第1期生として、国際経営学科3年次生 堀井 美玖さんがカナダのビクトリア大学へ向けて、8月末に出発しました。このプログラムへ参加した動機と今後の抱負について、現地カナダから報告していただきました。

国際経営学科 3年次生 堀井 美玖さん
(富山県立富山中高等学校卒)

カナダのビクトリアでの生活が始まってから、約1か月が経過しました。私は立教大学からダブルディグリープログラムに参加する一期生として、ビクトリア大学で約2年半の間学ばせていただきます。私の大学2年間は、コロナの影響で思い描いていたものとは異なるものになりました。そこで、カナダという新たな環境で新しく大学生活をスタートし、様々なことに挑戦したいと考え、このプログラムへの参加を決めました。さらに、このプログラムには co-op という数か月実際に企業で働くカリキュラムが含まれており、実践

的な就労経験を積むことが、将来必ず役に立つと考えたことも決定打になりました。

カナダでは、約2年半という長期にわたる経験から、学習面の知識だけでなく、新たな人との関わりなどの貴重な財産を得られると考えています。環境や文化の違いを楽しみつつ、自らの成長に繋げていきたいです。



●ウェルカムランチの様子(堀井さんは左から2番目)

第27回 CLUB 900 表彰式を対面で開催

新型コロナウイルスの影響を受け、長らくオンラインでの開催を余儀なくされていましたが、2022年7月28日、第27回目となる表彰式は、ようやく対面で開催することができました。ここ6か月間に TOEIC® L&R テストで900点以上を取得した63名の受賞者には、経営学部から表彰状とメダル、TOEIC® テストの実施団体である(財)国際ビジネスコミュニケーション協会(IIBC)様から記念品が授与されました。

国際経営学科3年次生の山本 綾音さん(北星学園女子高等学校卒)が、受賞学生を代表して英語でスピーチされ、「世界を知るためのツール」として、英語を習得することの重要性に気づいた中学生のころから、ずっと勉強を継続してきましたが、今回900点以上を達成できたことで、自分の英語力の飛躍的な成長を振り返る機会が得られ、新たな自信が持てるようになりました、と話されました。



●写真撮影時のみマスクを外していただきました

CLUB 900 表彰者名簿 (2022年7月28日)									
国際経営1年	山本 綾音	山本 鈴木	山本 芝田	山本 佐藤	山本 英蓮	山本 渡邊	山本 角田	山本 怜也	山本 水谷
経営1年	中山 裕太	中山 裕太	中山 裕太	中山 裕太	中山 裕太	中山 裕太	中山 裕太	中山 裕太	中山 裕太
国際経営2年	サミュエル	バティン	大沼	みかる	湯浅	松尾	直輝	中山	クリアー
経営2年	久富	葉菜乃	長手	もも	あゆみ	村北	絵梨菜	吉水	オリビア
国際経営3年	仙波	来唯	青島	佑樹	佐野	市川	市川	市川	市川
経営3年	横島	海月	ハモンド	礼	礼	礼	礼	礼	礼
国際経営4年	村田	成弘	藤本	友梨	花田	小林	稜真	井上	碧未
経営4年	山村	眞弘	矢野	譲士	沼上	藤田	佳佳	華子	ひな子

Most Improved Award 受賞

CLUB 900 表彰式では、惜しくも900点には届かなかったものの、ここ数年間に飛躍的に点数が上がった学生2名(国際経営学科4年次生 嶋田 姫由さん、国際経営学科4年次生 網干 和希さん)にも、その努力と成果を讃えて、Most Improved Award を授与いたしました。お二人にスコアアップの要因と後輩へのアドバイスを伺いました。

国際経営学科 4年次生 嶋田 姫由さん
(広尾学園高等学校卒)

このような賞を頂き大変嬉しく思います。私は入学当初もそうですし、現在も英語が得意なわけではありません。しかし、BBLプログラムのおかげで、英語に対する抵抗を感じなくなったように思います。例えば、各週で単語テストがあったり、グループでレポートやプレゼンテー

ションをしたりする機会が多くありました。普段から英語に触れる習慣がついたことで、留学生が多いNPOのインターンにも、一歩踏み出せたのだと思います。今後も英語学習に取り組むことで、自分の視野を広げていきたいです。



国際経営学科 4年次生 網干 和希さん
(広島県立世羅高等学校卒)

このような賞を頂き大変光栄です。スコアアップに関して、座学のみではスコアが伸び悩んだ経験から、座学にアウトプットを絡めた英語学習方法が効果的だと思います。ですから、EAP・ESP科目で実践するプレゼンテーションやディスカッションのように、言語を手段として何かを学習する環境・コミュニティを自ら探すが、スコアアップへの近道になると思いま

す。BBL科目は、語学力向上が結果として達成されるように設計された、本学部の特徴的なカリキュラムです。スコアを伸ばしたこと以上に、英語で意思疎通をとることへの不安を払拭できたことが、私にとって大きな収穫でした。座学だけに留めず、アウトプットを絡めていくことは少し勇気が必要なことかと思いますが、一緒に頑張っていきたいです。

